

令和6年度第1回各務原市フレイル予防推進委員会 要旨

日時：令和6年6月26日（水）午後3時00分

場所：市役所本庁舎 4階第1会議室

出席者（敬称略）：藤井 稚也 岸本 泰樹 池戸 沙季 岩田 道子 菊池 啓子
青野 和夫 富永 正信 藤井 敦信 坂井 真弓 土屋 直樹 高場 浩子
事務局：高齢福祉課 長縄 健司 早野 美佳 矢橋 茉佑 田中 彩恵 清水 浩栄

■進行概要

1. 開会あいさつ
2. 委員長の選出
3. 自己紹介
4. 検討事項

（1）令和5年度 フレイルチェック事業報告について

資料 1-1～資料 1-4

（2）令和6年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の計画について

資料 2

（3）アドバンスサポーター進捗報告および今後について

資料 3-1、資料 3-2

◎開会

◎委員長の選出

「各務原市附属機関設置条例」第6条第1項および第3項に基づき、委員長と副委員長を委員の互選により、委員長：藤井 稚也、副委員長：岸本 泰樹を選出

◎自己紹介

◎検討事項

（1）令和5年度 フレイルチェック事業報告について

事務局が資料 1-1～資料 1-4「令和5年度フレイルチェック結果」説明

委員の方からのご意見

- ・座位からの立ち上がり動作は、毎日行う行為のため、変化に気づきやすい。そのため身近な生活動作と重ね合わせ、自身の変化に気づくことが、フレイルを自覚するポイントになるのではないかと。また立ち上がりのように、日常の当たり前の動作に着目し、アプローチしていく必要がある。
- ・からだ測定の点数推移で改善するのは素晴らしいが、維持するだけでも素晴らしいことだと思う。
- ・「栄養フレイルチェック」×「フレイルと感じているか」のクロス集計の考察に、フレイルと感じている者の方が、食生活に気を遣っているとあるが、その考察に歪みがあるのではないかと。女性

は身近な人からの助言で容易に食生活を改善する傾向があるのに対し、男性は嗜好を優先する傾向があるため、フレイルと感じているから食生活を改善しようとはならないのではないかと。

- ・食事をしっかり食べるかは、食事の作り手次第である。また配食サービスを利用している人は栄養バランスが良いのではないかと。しかし、費用の面で高いため利用を続けるのは難しい。スーパーで食事を購入するにしても、たんぱく質を摂ろうと思うと高いため、安くてお腹が満たされるおにぎりやパンになってしまう。

委員長からのご質問と委員の方からのご意見

- ・ボランティアハウスでフレイルチェックを行うことはポピュレーションアプローチの一環である。そのボランティアハウスの数が減少しているのはなぜか。
- 担い手が難しくなったり、参加者が高齢になったりして、ボランティアハウスを閉じるところはある。しかし、減り続けるばかりではなく、新たな団体も新設され、全体としてはそれほど減少してはいない。

委員の方からのご意見

- ・ボランティアハウスの集まりを個人の民家で行っている団体は、フレイルチェックの場所に困るのではないかと。
- ・ボランティアハウスなどに参加する方は良いが、参加されない方をどう救っていくかが大きな問題である。参加されない原因として、耳が聞こえないことも影響しているのではないかと。聴力の低下によって会話が上手くできず、社会参加の機会を失っている可能性もある。では、今より悪くならないためには、どうしたらよいのか。補聴器は高くて、なかなか買えない。

委員長からのご質問と委員の方からのご回答

- ・聴覚と転倒について関係性はあると思うか。（臨床心理士の先生へ問い）
- 聴力の低下が転倒リスクにつながると考えていなかったが、車の運転ととても関係していると思う。聴覚機能の低下は認知症の入り口であり、運転が危ぶまれるため、交通手段を失う。よって、社会参加の機会が減少してしまうが、皆で集まり会話をしたり競争心を抱いたり、そういった刺激が大切である。

（２）令和６年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の計画について

事務局が資料２「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の計画」を説明

委員長からのご質問と事務局の回答

- ・フレイルチェックの実施箇所を増やすことで、ハイリスク者も増えると思うが、対応していけるのか。
- フレイルチェックの実施はフレイル予防サポーターの力を借りながら、専門職員はハイリスクアプローチを中心に従事できるよう計画している。

委員の方からのご意見

- ・フレイルチェックを行うことは大切だが、その後どうしていくかが重要である。ここで着目していくべきはボランティアハウスであり、効果的な働きかけをしていく必要がある。

(3) アドバンスサポーター進捗報告および今後について

事務局が資料 3-1「フレイル予防アドバンスサポーター交流会」を説明

資料 3-2「フレイルチェック実施体制の展望（案）」を説明

委員長からのご質問と委員の方からのご回答、事務局の回答

- ・フレイルチェック実施体制の展望について意見はないか。
- アドバンスサポーターが全体を仕切るのは難しいのではないか。突然仕切るのはできないから、令和 8 年度までに慣れた環境までにしておかなければならない。（委員の方）
- 令和 7 年度に研修やボランティアハウスにてフレイルチェックの進行の経験を積んでもらう計画。（事務局）

委員の方からのご意見

- ・アドバンスサポーターの目指すところを明確にしなければいけないのではないか。年齢とともに衰えていくため、フレイルチェックの結果はどんどん良くなって右肩上がりに改善していくことは難しい。そのため、1 つ階段を降りた部分も含めて、皆で受け入れ、見守りしていくことが目的だと掲げて良いのではないか。

(追加 1) フレイルの判定法について

委員長よりご提案と委員の方からのご意見

- ・自治体の健診で使われている「後期高齢者の質問票」はその 12 項目でフレイルの識別が可能であるという研究結果が東京都健康長寿医療センター研究所のウェブサイトで紹介されており、本市でのフレイル判定に用いることはできないか。
- 新たな評価基準ができるのならば良いのではないか。

(午後 5 時 00 分 終了)